



書評モニターによる
推薦図書・論文の短
評を掲載致します。

◆拾う

拾う技術研究会編 日経出版
五十二年八月発行 一二〇〇円

「拾う」とは、もつとも生きものの的な行為そのものといえる。とくにエコロジカルな世界では、本質的に捨てる概念はない。本書はこうしたことに科学技術的なスポットをあてて、拾う文化から新しい文明への道を模索しようとする、ユニークな技術編であるといえる。

(電気通信大学助教授 合田周平)

◆近衛文麿

矢部貞治著 読売新聞社
五十一年七月発行 七〇〇〇円

昭和二十七年、弘文堂から矢部貞治博士の手に成る「近衛文麿」(上・下二巻)が出版された。それは近衛の伝記という形をとったが、その内容は単にそれにとどまらず、昭和政治史の第一資料として大変な「名著」という高い評判を得た。

その後長い間絶版となっていて、研究者の間から再版の要望が強く寄せられていたが、今回読売新聞社から復刻版として一巻になって本書が刊行された。巻末には奥村房夫氏の「解題」が

新たに付加され、本書をより充実したものにしている。いつ読んでも「名著」とも痛感する。

(早稲田大学教授 大谷忠教)

◆甦れ人間経済学

坂本二郎著 創世紀
五十一年九月 一二〇〇円

スミス、マルサス、リスト、マルクス、マーシャル、シュムペーター、ケインズ、ポールディングの八人の経済学を更に判り易く見直している。マルクスを「偉大なる独断論」と評したり、現代への対比が見事である。病の癒えつつある坂本さんよ甦れ。

(慶応義塾大学教授 加藤 寛)

◆証言のなかの真実

トランケル著 金剛出版
植村秀三訳
五十一年六月発行 三〇〇〇円

このころは裁判で証言をイデオロギイからまげようとするような遺憾な傾向がありますが、証言の信用性は厳密な科学的吟味の下で始めて可能であり、すなわち供述心理学という見地

から、今のさわがしいいくつかの刑事事件を見る必要があります。本書はその点で類書の少ないすぐれた研究であり、注目されてよいと思います。

(上智大学教授 霜山徳爾)

◆農具

飯沼二郎著 法政大学出版社
堀尾尚志著
五十一年十月発行 一三〇〇円

農具の歴史をのべた手頃な本は従来とほしかった。この本はその空白をうずめてくれる。さらに内容は農具自体の変遷をたどるにとどまらず、それを通じて日本の風土条件や文化的特質に及び、歴史上の重要な有名な諸条件に、農具がいかにかわりあっていたかを例示してくれている。

(青山学院大学講師 筑波常治)

◆中国現代史研究序説

今堀誠二著 勁草書房
五十一年四月発行 一九〇〇円

積年の中国近代史学に関する著者の学識がいよいよ円熟しつつあるなかで、本書は中国現代史研究の一つの創造的パターンを提示したものであると同時に、地域学としての中国研究の方法をも示唆したものといえよう。とくに中国社会史の立場からする第一章「中華帝国」が興味深く、また随所に見られる著者の毛沢東評価は、「毛沢東研究序説」の著者ならではの独自のものである。

(東京外国語大学助教授 中島嶺雄)

文化

◆十二月・月例懇談会のお知らせ

今年も残り少なくなりました。本年最後の月例懇談会が次のとおり開催されますので、ご案内申し上げます。

日時……十二月二十一日(火)

午後二時から

場所……日本文化会議談話室

テーマ……「一九七六年を顧みる」

今回は佐瀬昌盛(防衛大学教授)

柴田 穂(サンケイ新聞)

志水速雄(東京外語大助教授)

林 三郎(東海大学教授)

本間長世(東京大学教授)

の各氏を囲み、パネルディスカッションをおこないます。多数御参加くださいますようお願いいたします。

☆

☆

◆新会員

中原伸之

(経済評論家)

〒158 世田谷区尾山台二一九一七

TEL 七〇二・五五七七

短信